

予備試験検討 WG（一般教養）

検討結果報告

H20.11.12

第1 出題方針

- ◎ 一般教養科目においては、学校教育法（昭和22年法律第26号）に定める大学卒業程度の一般教養を基本とし、法科大学院において得られる法曹として必要な教養を有するかどうかを試すものとしてはどうか。
- ◎ 一般教養科目の出題に当たっては、幅広い分野から出題し、法科大学院の教育を踏まえ、知識の有無を問う出題に偏することなく、思考力、分析力、表現力等をも判定できるように出題を工夫するものとしてはどうか。
- ◎ 一般教養科目の出題に当たっては、法律科目の知識のみで容易に解答できる問題は出題しないように工夫するものとしてはどうか。

第2 短答式試験

1 出題範囲

- ◎ 人文科学、社会科学、自然科学、英語としてはどうか。

2 出題形式・方法

- ◎ 必須問題と選択問題を設けるものとしてはどうか。
- ◎ 必須問題は、①人文科学から現代文の読解を中心とした問題、②社会科学から現代社会を中心とした問題を出題するものとしてはどうか。
- ◎ 選択問題は、①人文科学（必須問題の分野を除く。）、②社会科学（必須問題の分野を除く。）、③自然科学、④英語を出題するものとしてはどうか。
- ◎ 選択問題は、出題範囲の各分野毎に複数題を出題し、その中から、分野を問わずに、一定数の問題を選択して解答するものとしてはどうか。
- ◎ 解答形式は、全問マークシート方式としてはどうか。

3 試験時間，問題数，配点比率

- ◎ 試験時間は1時間30分としてはどうか。
- ◎ 解答すべき問題数は40問程度とし，必須問題は20問程度（現代文解釈10問程度，現代社会10問程度）を出題し，選択問題は32問程度（1分野8問程度）を出題し，その中から20問程度を解答するものとしてはどうか。
- ◎ 配点比率は，各問題間で同一としてはどうか。

第3 論文式試験

1 出題範囲

- ◎ 思考力，分析力，表現力等を判定できる問題を出題し，専ら知識の有無を問う問題は出題しないものとしてはどうか。
- ◎ 基本的には，社会科学及び人文科学の分野に素材を得た小論文の作成を求める出題とし，自然科学の問題，英語（英文和訳・和文英訳）は出題しないこととしてはどうか。

2 試験時間，出題形式等

- ◎ 試験時間は1時間とし，出題は1題としてはどうか。

第4 他の科目との関係での比重等

- ◎ 一般教養科目の比重は，基本的には，他の科目との関係で，試験時間の配分に対応した比重を有するもの（短答式試験においては，相対的に高い比重であることが望ましく，論文式試験においては，相対的比重が過度に高くないよう配点を工夫する必要がある。）としてはどうか。
- ◎ 短答式試験及び論文式試験いずれについても，一般教養科目が一定得点に満たない場合，他の科目の得点如何にかかわらず不合格とする最低合格ライン点を設けるものとしてはどうか。

以上